

第3回 自治基本条例をつくる市民会議
テーマ：行政にはこうあってほしい（行政の責務）
自治の課題を解消するために行政に望むこと
～小諸市の行政の責務を確認するためのワークショップ～

日時：平成20年9月10日（水） 場所：コミュニティセンター3階会議室

< 1班のWSのまとめ > 参加人数9名

これまでのワークショップの結果から見てきた「小諸市の自治の課題」と、課題を裏返した「小諸市の自治の理想像」に対する意見交換（テーマ1）を行った後、4つの課題を解消するために誰が（テーマ2）どのような役割を果たすべきであるか。また、そのなかで行政はどのような役割・責務を担うか（テーマ3）という流れで意見を出し合った。

テーマ1：a.小諸市の自治の課題について

・“課題”全体に対する意見

これまでのワークショップをまとめた結果であるため、おおむね課題は捉えられていると感じる一方、数字や具体例で検証しなければ、具体的な検討が難しいという指摘が出た。

・各テーマに対する意見

「低下する自治意識を高める」、「市民活動を地域の運営に活かす」という課題に対しては、行政が地域の運営のために市民の力を利用しようとする発想だけでは、自発性が生まれず、市民活動が育たないのではないか、という意見があった。このため、あまり市民活動を型にはめて活用しようとしたり、無理に育てようとするよりも、自発性が高まるように少しずつ伸ばしていくという行政の姿勢が必要との指摘があった。

また、課題の記述では、市民活動と区の活動、ボランティア活動などの用語が並列的に扱われているが、区やボランティアの活動は、市民活動に含まれるものであることと、ボランティア活動の捉え方は報酬ひとつをとってもかなり幅が出てきているので、言葉をしっかり定義して使う必要があるとの指摘があった。

「区と行政の役割分担」については、区と行政の関係だけでなく、区と住民との役割分谷についても重要な課題として位置づけることが必要との意見が出た。



前回までの市民会議の検討内容の確認

「行政を適切に管理する」という課題に対しては、管理という言葉づかいに違和感があるという意見、市民と行政のコミュニケーションについては、最近の図書館建設問題等を見ても確かにチグハグになっているとの意見があった。

テーマ1：b.小諸市の自治の目指す姿について

・“目指す姿”全体に対する意見

目指す姿についても、おおむねこれで良いと感じるという意見がほとんどだったが、そもそも、小諸の自治のあるべき姿を考えるためには、小諸という街がどのような将来像を描くかにかかっているため、まずは、街の将来ビジョンを考えて、共有することが前提となるという指摘があった。また、この意見に関連して、将来ビジョンや自治のあり方をつくりあげるには、この会議に参加していない多くの市民がいることを考慮したものになければ意味がないという意見も出た。そして、自治の目指す姿を市民に浸透させる手段として、難しく長い文章ではなく、ワンフレーズで理念を示すようなキャッチコピーを考え、発信していくことも有効ではないかというアイデアが出された。

・各テーマに対する意見

「低下する自治意識を高める」、「市民活動を地域の運営に活かす」という課題に対しては、若い人が厳しい社会状況の中で地域活動に参加しづらくなっている実態や価値観が多様化していることを十分に踏まえる必要があるという指摘がされた。

テーマ2：誰が自治の課題の解消に向けて中心的な役割を果たすのか？

・“誰が中心的な役割を果たすのか”というテーマ全体に対する意見

このテーマに対しては、「自治の問題は行政がリーダーシップをとらなければ進まない」とする意見と「市民の問題だけに行政はあくまで黒子」、あるいは「市民・議会・首長・行政の4者が協力して取組むべき」という意見が出たが、検討の結果、どれか1つの考え方が最良とは言えないので、考え方を絞りこむよりも状況によって柔軟に役割を変えていくべきという結論に至った。

テーマ3：行政・職員の役割・責務について

・各テーマに対する意見

「低下する自治意識を高める」ためには、行政に限らず、この課題の解決できる力のある立場・能力のある人が、自治的な活動に多くの人を巻き込み、楽しく参加できるように働きかけることが必要であるという意見が出た。このため、行政には、中心となって引っ張ったり、黒子として支えたり、柔軟に自治活動をサポートしていくことが求められる。

「市民活動を地域の運営に活かす」ためには、まず、行政（個々の職員）が、市民活動を公共の担い手のパートナーとして認める姿勢を持たなければならないという意見が出た。市政運営の協力者であるパートナーに対して、行政はその活動がより充実するように、拠点整備などの支援を行うこと、また、支援を行う際に市民活動の担い手の声を十分に聞

いたうえで、支援を行うことが行政の責任であり、今後ルール化することを検討してはどうかという意見が出た。

「区と行政の役割分担」を適切に行うためには、区全体を調整できる立場にいる行政が検討の場を設けたうえで、いつまでに何を決めるかといった検討の大枠を定め、議論を調整していくことが求められるという意見が出た。

「行政を適切に管理する」ためには、行政は事業や施策の状況を市民に対して伝えるように発信する責任があり、市民は行政の発する情報に対して理解しよう、知ろうと努めることが責務であるという意見が出た。また、行政が行う事業のうち主要なものや市民の意見がわかるものについては、市民のニーズを汲み上げて適切な判断や修正を行うことが行政の役割であり、その手段としては、アンケート調査を行うことが有効との意見が出た。

第3回 自治基本条例をつくる市民会議
テーマ：行政にはこうあってほしい（行政の責務）
自治の課題を解消するために行政に望むこと
～小諸市の行政の責務を確認するためのワークショップ～

日時：平成20年9月10日（水） 場所：コミュニティセンター3階会議室

< 2班のWSのまとめ > 参加人数9名

先回までのワークショップのまとめとして、「小諸市の自治の課題」について4項目、「小諸市の自治の目指す姿」について5項目を確認した後、「誰が中心的な役割を果たすか」、「行政・職員の役割・責務について」の2テーマについて検討を進めた。

課題1：「低下している住民の自治を高めて行くことが必要」について

・テーマ1：課題と目指す姿の確認

「低下している住民の自治意識を高めていくことが必要」という課題に対し、現状では、本市の自治を行なう一員であるという意識をもった人が少ないという意見があがった。一方で、自治意識を持つということは、理想論であり、実際にはそのようなことは難しいとする指摘もあった。

「住民の自治意識が高い」という目指す姿については、特に意識の高い人がリーダーとなり自治活動を牽引している、あるいは、個人だけではなくグループ単位で自治が行われている、ということを目指す姿に加えるべきだとする意見があがった。このほか、複数ある目指す姿の中で、最も重視すべきことが「自治意識の高さ」である、という意見もあがった。

・テーマ2：誰が中心的役割を果たすか

誰が中心的な役割を果たすべきか、というテーマに対しては、住民・行政・首長・議会の4者が共に連携して中心をなすべきという意見があがった。このほか、自治を実現するためには小さい頃からの教育が重要であるため、教育機関の役割は大きいという意見や、市民から選ばれた議会が中心を果たすべきだ、という意見もあがった。

・テーマ3：行政・職員の役割・責務について

行政に求められる役割として、市民に対する説明会や情報公開をしっかりと行うこと、また市民の意見をよく聞くこと、市長が公民館等へ出向くなどし、市民の声を直接受取る場面を設ける、などがあがった。このほか、職員が小諸市に対する理解を深めることや自治を実現するために担うべき役割について理解を深めることが必要、という意見もあがった。

課題2：「機運が高まっているボランティア活動や市民活動を地域の運営に活かしていくことが必要」について

・テーマ1：課題と目指す姿の確認

「機運が高まっているボランティア活動や市民活動を地域の運営に活かしていくことが必要」という課題に対し、ボランティアを続けることは資金不足や人材不足などの問題があり、継続が難しいという意見や、ボランティアをすることが他人に迷惑をかけていると誤解されることがあるという意見、グループ同士の連携をとって活動することが難しいといった意見も挙がった。

「区やボランティア活動などの市民活動が盛んで、暮らしやすい地域を市民皆でつくっている」という目指す姿に対しては、ボランティア等が活動を継続的に行える、ということを目指す姿に加えるべきだとする意見が挙がった。

・テーマ2：誰が中心的役割を果たすか

中心的な役割を果たすのは、現実的には時間に余裕のある人でないと難しい、という意見が挙がった。このほか、誰が中心というわけではないが、市民一人ひとりがそれぞれの立場でできることをやるべき、という意見や、「お金を出す人」、「知恵を出す人」、「力を出して働く人」の3つの役割が必要で、どれが欠けてもボランティア活動や市民活動はうまく行かない、と言った意見も挙がった。

・テーマ3：行政・職員の役割・責務について

行政に求められる役割としては、ボランティアが活動しやすくなるよう、今どんな活動が必要とされているのか情報提供を行うことや、市民が行政に相談しやすくなるような雰囲気づくりをすること、市役所から遠くに住んでいる人が身近にいる議員や区長等に気軽に相談できる体制をつくるべきだ、と言った意見が挙がった。これにあわせて、職員がボランティアに関する様々な事柄について、理解を深めることも必要だ、という指摘もあった。

課題3：「安全で快適な市民生活を送るための区と行政の役割分担の再確認・再設定することが必要」について

・テーマ1：課題と目指す姿の確認

「安全で快適な市民生活を送るための区と行政の役割分担の再確認・再設定することが必要」という課題に対し、行政サービスに対するニーズが過度に高まっている一方、行政側でもニーズに応えきれていないということが課題である、という意見が挙がった。このほか、行政はNPOやボランティアに任せすぎている、行政と区の役割分担がしっかり行われており課題は無い区とそうでない区がある、という意見が挙がった。

「市民活動や、行政の適切な支援のもとで、適切な役割分担の考えにもとづいて行われている」という目指す姿については、市民・行政間の対等なパートナーシップを築かれている、ということを目指す姿に加えるべきだとする意見が挙がった。このほか、区に対しては役員の手当てだけでなく事業の予算も与え、区の裁量権を大きくすることが自治に

繋がる、という意見や、「役割分担」と言うと何かを行う人とそうでない人が区別されてしまうが、本来は誰もが役割を担うべきであり、あえて役割を明確にしないことも重要である、という意見も挙がった。

・テーマ3：行政・職員の役割・責務について

行政に求められる役割として、状況に応じリーダーシップを発揮する場面と、市民の聞き手に徹すべき場面を使い分けること、という意見や、役割分担をより良いものにするために、区との情報交換を密に行う、という意見も挙がった。このほか、善意でやっていることを他者から中傷されてしまうといった問題の解決を行なうべきだ、という意見や、区の役員を担ったにもかかわらずその役割を放棄する人もおり、そのような場合には区の役割の一切を行政が担った方がよいという指摘もあった。

課題4：「行政の施策・事業の効率性や効果を適切に管理することが必要」について

・テーマ1：課題と目指す姿の確認

「行政は、市民にとって必要な事業を効率的・効果的に実施している」という目指す姿については、市の予算をしっかりと公開されている、効率性・効果性を伝えるための情報提供が行なわれている、を目指す姿に加えるべきだとする意見が挙がった。

・テーマ3：行政・職員の役割・責務について

行政に求められる役割は、事業の実施状況などについて適宜情報提供を行うこと、という意見が挙がった。



意見を付箋に書き項目ごとに分けて貼っていきます。まとめたものを各班ごとに発表し、意見を共有します。